



Enterprise Architect 10.0 feature guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 10.0 機能ガイド

(2014/6/10 最終更新)



このドキュメントでは、Enterprise Architect 10.0 で追加・改善される機能についてご紹介します。なお、このドキュメントで説明する機能の詳細は、バージョン 10.0 の正式リリースまでの間に変更される可能性があります。青字の文字は操作方法を示しています。

バージョン 9.3 までの Enterprise Architect をご利用のお客様へのお知らせ

バージョン 10.0 では、いくつかの点について、バージョン 9.3 から動作が変更になっています。主な変更点を紹介します。バージョン 9.3 以前から継続してご利用になる場合には、ご注意ください。

○シーケンス図

- ▶ メッセージをドラッグする場合には、常に前後のメッセージとの間隔調整になり、他のメッセージとの順序の入れ替えは発生しません。他のメッセージとの順序を変えたい場合には、ALT キーを押しながらドラッグして下さい。
- ▶ 複合フラグメント内のメッセージは、ドラッグしても複合フラグメントの外に出すことはできません。複合フラグメントからメッセージを外に出したい場合には、ALT キーを押しながらドラッグして下さい。

○クラス図

- ▶ 列挙要素は、ステレオタイプ<< enumeration>>の「クラス」から、「列挙」という独立した種類の要素に変わりました。9.3 以前に作成した列挙要素は、ステレオタイプ<< enumeration>>のクラスとしてそのまま残ります。(自動的に変換されることはありません)
- ▶ インターフェース要素は、ステレオタイプ<< interface>>の「クラス」から、「インターフェース」という独立した種類の要素に変わり、ステレオタイプの追加が可能になりました。9.3 以前に作成した要素は、自動的に変換されます。

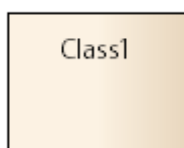
○全体

- ▶ 追跡の接続は、ステレオタイプ<< trace>>の「依存」から、ステレオタイプ<< trace>>の「抽象化 (abstraction)」の接続に変わりました。9.3 以前に作成した追跡は、ステレオタイプ<< trace >>の依存としてそのまま残ります。(自動的に変換されることはありません)

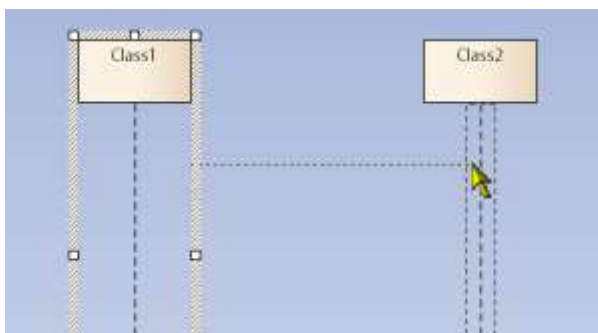
さまざまなダイアグラム内の操作の改善・強化

ダイアグラム内の操作や表現について、頂きましたさまざまなご要望を元に、多くの改善を行いました。以下は、その一例です。

- シーケンス図のメッセージについて、ドラッグした場合には常に「移動」になるようにしました。
(順序の入れ替えは、ALT キーを押しながらドラッグする)
また、フラグメント内のメッセージは外に出ないようにするなど、いくつかの改善を加えました。
- クラス要素など四角形で表示される要素について、表示する内容がない場合には、名前下の区切り線を表示しないようになりました。



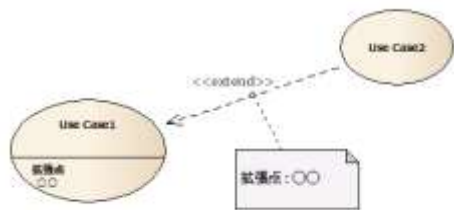
- 状態に対して領域を定義した場合、子状態はいずれかの領域に厳密に所属するように操作を制限しました。
(領域間でドラッグすることにより、移動が可能です)
- 要素を選択した際のフレームやハンドルの表示を変更しました。
- クイックリンク機能を利用中の、接続先の要素を示す点線枠の表現を変更しました。特に、シーケンス図で操作性が向上しました。



- プロジェクトブラウザから要素をダイアグラム内にドロップした場合に表示される画面を、要素の種類を問わず共通の画面を表示するように改善しました。

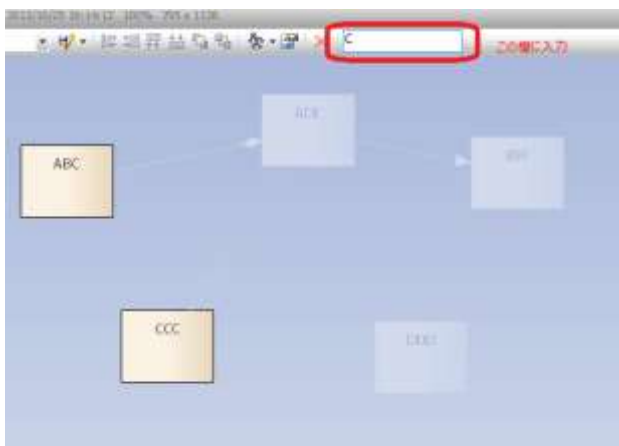


- プロジェクトブラウザ内での、カット(Ctrl+X)&ペースト(Ctrl+V)に対応しました。プロジェクトブラウザの内容が多い場合に、パッケージや要素を移動する場合に便利です。
- ユースケース図の拡張(extend)の接続に対して、拡張点の情報を表示可能になりました。

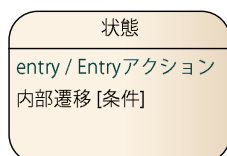


(拡張の接続を右クリック→「追加設定」→「拡張点」→「拡張点の表示」)

- ダイアグラム上部のボックスに文字列を入れると、その文字列を含まない要素は薄く表示される、簡易ダイアグラムフィルタの機能を追加しました。



- ダイアグラム内の要素を別の要素の上に移動する場合、ダイアグラム内の要素の前後関係を適切に調整するようになりました。
- 状態要素に対して、内部遷移を表現できるようになりました。



(状態に対して自己遷移を作成し、プロパティ画面の「追加設定」グループにある「kind」を「internal」に設定する)

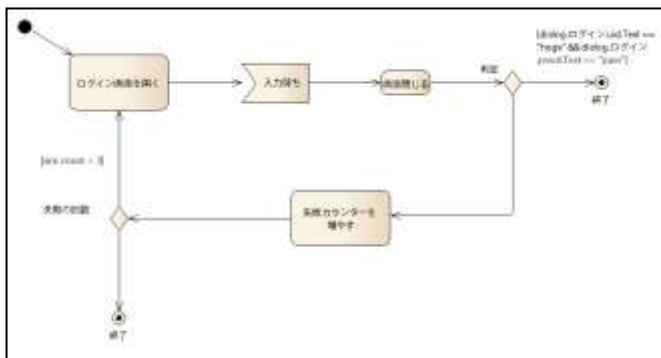
デバッグ機能が Android やリモート環境の Java に対応

デバッグ機能が JDWP に対応したため、Android アプリケーション(実機あるいはエミュレータ)やリモート環境の Java のデバッグが可能になりました。これにより、Android アプリケーションの動作結果からシーケンス図を自動的に生成することが可能になりました。

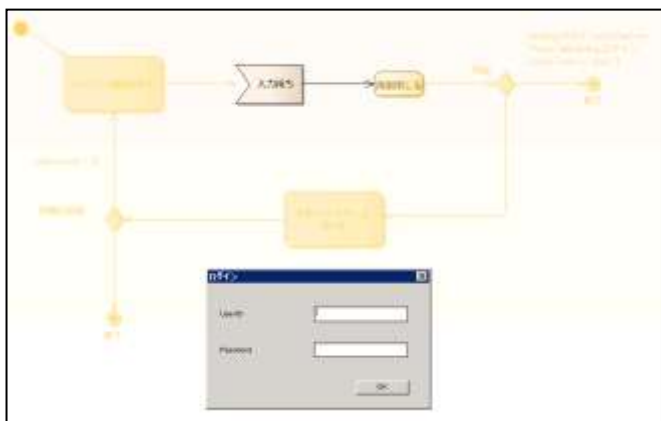
シミュレーション機能の強化

シミュレーション機能について、以下の点を強化しました。

- Win32 画面設計を利用して作成した内容に対してシミュレーションを実行することで、画面遷移を目に見える形で確認できるようになりました。次の図の例では、アクティビティ図のアクションとして Win32 画面要素を表示しています。OK ボタンを押すと内部のシグナルが発行されて「入力待ち」の状態から先に進み、画面に入力された値を判定して処理を分岐しています。



アクティビティ図

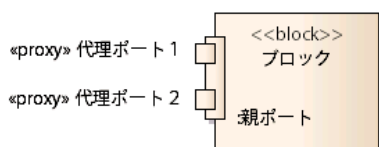


実行中の例

- 時間受信イベントの追加や、処理時間が指定可能になったことにより、時間を意識したシミュレーションができるようになりました。
- BPMN2.0 モデルのシミュレーションで、スクリプト形式で処理の内容を記述して実行できるようになりました。

SysML 1.3 への対応

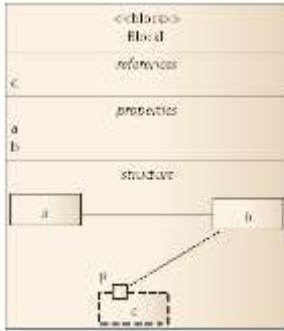
今回のバージョンで、SysML の最新バージョンである SysML 1.3 に対応しました。



SysML1.3 の入れ子のポートの例

また、SysML の過去のバージョンを含めて、以下のような改善を行いました。

- structure および namespace の区画に対応しました。



区画の表示例

- 区画名を斜体で表示するように修正しました。
- ブロック要素に対して内部ブロック図を作成した場合に、ブロック要素の「枠」やブロック図が持つポート要素が自動的に内部ブロック図に表示され、内部ブロック図のモデリングが簡単にできるようになりました。
- Unit 要素の quantityKind および Block 要素の encapsulated の属性を設定すると、画面に表示されるように表示を改善しました。
- クイックリンクのルールを見直しました。

BPMN 2.0 についての改善

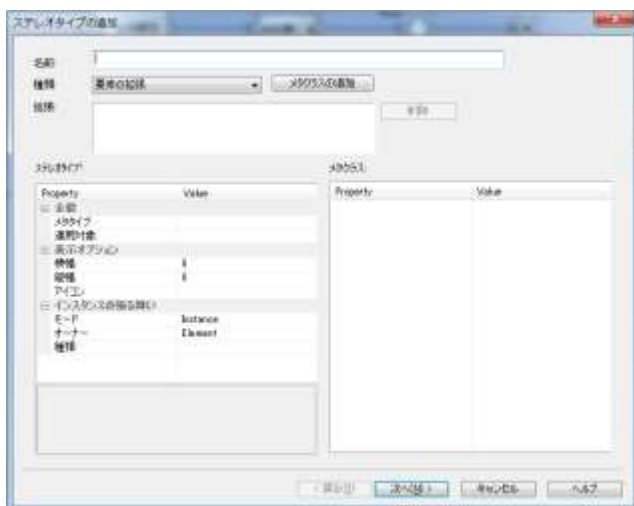
BPMN 2.0 について、以下のような改善を行いました。

- プール・レーンについて、配置すると自動的に左端(あるいは上端)に接して配置され、他の要素の位置に応じて自動的に幅(あるいは高さ)が調整されるようになりました。
- 要素の名前のラベルが、必要以上に長くなる問題を修正しました。
- レーンの名前部分の表現を改善するなど、表現についての細かい修正を行いました。

MDG テクノロジー作成時の支援機能の追加

UML 以外の独自のモデルを定義して活用するための、Enterprise Architect の拡張の仕組みである「MDG テクノロジー」について、作成時に役立ついくつかの支援機能を追加しました。具体的には、以下のような機能・仕組みを追加しました。

- 新規に MDG テクノロジーを定義する場合に役に立つモデルテンプレートが利用できます。
- ステレオタイプ要素に対して、基本的な設定を便利に行うことのできるプロパティ画面を追加しました。



(ツールボックスの「プロファイル」グループ内に「プロファイルエディタ」の機能のアイコンをダイアグラム内にドロップしてください。)

- ・ 独自のダイアグラムやツールバーの定義の際にも、ウィザードを利用して効率よく定義を行うことができます。

リポジトリ間のデータ共有

コーポレート版で DBMS リポジトリを利用している場合に、以下の内容を複数の DBMS リポジトリ間で共有できるようになりました。

- ・ セキュリティ(アクセス権)関連の設定(ユーザーやグループなど)
- ・ 用語集
- ・ プロジェクトのタスクや問題点
- ・ スクリプト
- ・ ステレオタイプなど、プロジェクトに関連するさまざまな定義

共有のためには、特別な DDL スクリプトを生成し、そのスクリプトを DBMS に適用する必要があります。(DDL スクリプトは、共有対象のデータを持っている DBMS リポジトリを開いた状態で、メインメニューから「ツール」→「プロジェクトの管理」→「共有リポジトリ」で生成できます。)

メニュー構成の大幅な見直し・タブ形式での表示など

サポート宛にいただきましたご要望・ご意見を元に、メインメニューおよびコンテキストメニューの構成を大幅に変更しました。メインメニューの項目について、新旧の対応につきましては、このドキュメントの末尾の表をご覧ください。

また、いくつかのサブウィンドウやツールバーについては、統合・分割をおこないました。一部のサブウィ

ンドウについては、ウィンドウではなくタブとして表示されるように変更されました。

さらに、スタートページのデザインを見直し、変更しました。

その他の変更・改善

- 関係マトリックスで、各セルに対して、矢印の代わりに文字を表示する機能を追加しました。

	Class1	Class2	Class3	Class4	Class5
Class1					
Class2		○		×	
Class3			△		
Class4					
Class5					

(文字として、○△×を指定した場合の例)

(関係マトリックスの画面に追加された「表現」のドロップダウンリストで設定できます。設定後、セルを右クリックして「独自表現の適用」を実行します。)

- 生成した HTML ドキュメントで、付属ドキュメントの内容が文字化けする問題を修正しました。
- 「関係する要素の追加」機能を強化し、指定した条件を満たす要素のうちの一部のみを配置することが可能になりました。
- RTF ドキュメントのテンプレート機能において、テンプレート内に、他のテンプレート(テンプレート部品)を入れ子で含めることができるようになりました。これにより、テンプレートを組み合わせて、複雑なドキュメントの作成も可能になります。
 - テンプレート部品は、今までと同様の方法・内容のテンプレートとして定義できるほか、SQL クエリの結果やスクリプト機能(API の利用)で得られる内容を、ドキュメントに含めることができるようになります。
- GDB を利用したデバッグについて、過去のバージョンの GDB への対応等、いくつかの改善を行いました。
- 以下の MDA 変換テンプレートを追加しました。
 - C++
 - VB.NET
 - PHP
 - シーケンス図とコミュニケーション図の変換
- API で、以下の属性や操作を追加しました。
 - Repository.RemoveWindow
(自作のアドインサブウィンドウを閉じる)
 - Repository.RepositoryType
(DBMS リポジトリの種類を取得可能)
 - Repository.InvokeConstructPicker
(EA の内部で利用している、要素の選択画面を表示する)
 - Project.GenerateWSDL
 - Attribute.Alias

- Method.Alias
- Diagram.GetDiagramObjectByID
- 以下のアドインイベントを追加しました。
 - EA_OnTabChanged
 - EA_OnPreDropFromTree

そのほか、300項目以上の細かい改善やバグ修正を行いました。

補足: メインメニューの項目の変更・追加・削除の一覧

○ファイル

現在のプロジェクトを再読み込み	名称変更: 「プロジェクトを再読み込み」
プロジェクトのショートカットを作成	名称変更: 「ショートカットとして保存」

○編集

検索	名称変更: 「プロジェクト内の検索」
要素の貼り付け	削除
リンク	名称変更: 「リンクとして貼り付け」
新規要素	名称変更: 「新規要素として貼り付け」
	新規追加: 選択を解除

○表示

その他のサブウィンドウ/メニュー	削除
リソース	プロジェクトメニューに移動
プロジェクトの情報	プロジェクトメニューに移動 & 名称変更: 「タスクと問題点」
ユーザーの情報	名称変更: 「自分の情報」
タスクの割り当て	名称変更: 「自分のタスク」
ツールボックス	ダイアグラムメニューに移動
ダイアグラムフィルタ	ダイアグラムメニューに移動
ダイアグラムのレイアウト	ダイアグラムメニューに移動
ダイアグラムの概要	ダイアグラムメニューに移動
要素のプロパティ	要素メニューに移動 & 名称変更: 「プロパティサブウィンドウ」
接続ブラウザ	要素メニューに移動
要素に関するその他のサブウィンドウ	削除
シナリオ・制約・要求	要素メニューに移動
要素ブラウザ	要素メニューに移動
プロジェクト管理	要素メニューに移動
保守	要素メニューに移動
テスト	要素メニューに移動
ソースコード	要素メニューに移動 & 名称変更: 「ソースコードサブウィンドウ」
スクリプト	ツールメニューに移動
ツールバー	
UML 要素	名称変更: 「新規要素」
現在の要素	名称変更: 「選択要素」

現在の接続	名称変更：「選択接続」
デバッグと記録	名称変更&分割：「デバッグ」、「記録」

○プロジェクト

新規ダイアグラム	名称変更：「ダイアグラムの追加」
プロジェクトカレンダー	名称変更：「カレンダー」
	新規追加：「プロジェクトのガントチャート」
ドキュメント	
RTF ドキュメントの生成	名称変更：「ドキュメントの生成 (RTF/PDF)」
プロジェクトの問題	削除
プロジェクトの用語集	削除
実装関係レポート	名称変更：「QA レポート・測定」
依存関係レポート	
テストの詳細レポート	
ベースライン	名称変更：「ベースラインの管理」
パッケージを XML 形式で出力	名称変更：「モデルの出力」
バージョン管理	
パッケージのバージョン管理設定	名称変更：「パッケージの設定」
バージョン管理の設定	名称変更：「バージョン管理の基本設定」
ユースケース測定	名称変更：「QA レポート・測定」
プロジェクトの統計を参照	名称変更：「タスクと問題点」

(ダイアグラムメニュー内での名称変更はありません。)

○要素

特性の表示設定	名称変更：「属性・操作と区画の表示設定」
位置	削除
左端	
右端	
上端	
下端	
中央揃え	
同じサイズに設定	
幅	
高さ	
両方	
順序	削除

	前面へ移動	
	背面へ移動	
	最背面へ移動	
	最前面へ移動	
大きさ		
	幅を広げる	
	幅を狭める	
	高さを伸ばす	
	高さを縮める	
移動		
	左	
	右	
	上	
	下	
間隔を揃える		
	左右方向	
	上下方向	

○ツール

プロジェクトの管理	
	新規追加：「共有レポジトリ」

○動作解析

テスト	削除
テストスクリプトの実行	削除
ブレイクポイントとトリガ	「シミュレーショントリガ」と「ブレイクポイント」に分割
	新規追加：「読み込みルールエディタ」
その他のサブウィンドウ	削除

○設定

RTF ドキュメントのテンプレート	プロジェクトメニューに移動 & 名称変更 「ドキュメントテンプレートエディタ」
コード生成のテンプレート	ツールメニューに移動 & 名称変更：「ソースコード生成テンプレート」
変換テンプレート	ツールメニューに移動&名称変更「モデル変換テンプレート」